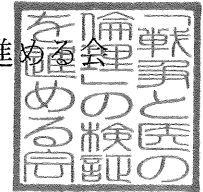


2016 年 7 月 21 日

各 医学会分科会 代表者 様

「戦争と医の倫理」の検証を進める会



声明の送付について

拝啓

貴職におかれましては、日頃より日本の医学・医療の向上発展のためにご尽力しておられますことに敬意を表します。

さて、私たち「『戦争と医の倫理』の検証を進める会」は 2009 年に発足し、「過去に目を閉ざすものは、結局のところ現在にも盲目となる」という歴史の教訓を生かして、いわゆる「731 部隊」に代表される十五年戦争下における日本の医学者・医師らによる「人体実験」などの非人道的行為を、史実に沿って検証し、その教訓を生かしていくために活動を続けてまいりました（設立趣意書ご参照）。

この度、日本学術会議幹事会における「安全保障と学術に関する検討委員会」の設置について、6 月 8 日国会内での記者会見を開催し、「日本学術会議の軍事研究容認の動きを危惧し、反対する医学・医療関係者の声明」を発表致しました。諸般の事情により送付が遅れましたが、関係資料とともにお送り致します。

趣旨をお酌み取りいただき、貴学会の活動に反映していただきますようお願いいたします。

敬具

<送付資料>

1. 「日本学術会議の軍事研究容認の動きを危惧し、反対する医学・医療関係者の声明」
2. 当会設立趣意書
3. 記者会見の各紙報道

<連絡先> 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-5-5 新宿農協会館

全国保険医団体連合会内 「戦争と医の倫理」の検証を進める会

代表世話人 赤羽根 巖・石川 徹・西山勝夫

事務局長 住江憲勇

<担当事務局 03-3375-5121 小林耕治>

日本学術会議の軍事研究容認の動きを危惧し、反対する

医学・医療関係者の声明

わが国の人文・社会科学、自然科学全分野の代表機関である日本学術会議が2016年5月20日、軍事研究のあり方を考える「安全保障と学術に関する検討委員会」の設置を幹事会で決定した。これに先立ち同会議の大西隆会長が本年4月の総会で自衛目的の研究を容認する考えを示したのを受けての動きと考えられる。

私たち「『戦争と医の倫理』の検証を進める会」は、軍事研究に公然と道を開こうというこの委員会設置を強く危惧し、医学界の一員としてここに断固として反対の意を表明する。

「『戦争と医の倫理』の検証を進める会」は2009年に発足し、「過去に目を閉ざすものは、結局のところ現在にも盲目となる」という歴史の教訓を生かして、いわゆる「731部隊」に代表される十五年戦争における日本の医学者・医師らによる「人体実験」などの非人道的行為を、史実に沿って検証し、その教訓を生かしていくために活動を続けてきた。

患者の命を守るべき医学者・医師が「研究」の名目のもとに残虐な行為を行う加害者となり、戦後は「人体実験」などのデータ供与と引き換えに米国政府から免責され、わが国の医学界は一貫して検証も反省もせずに事実を隠蔽したまま現在に至っている。このように「731部隊」の問題には、軍事研究が行き着く先のすべてが含まれている。私たちは本会の設立以来、多くの資料や証言によってこの日本で実際に起きた医学者の加害の歴史について検証を進め、二度とこのような過ちを繰り返すべきではないと日本医学会や日本医師会を始め、医学界に強く警鐘を鳴らしてきたのである。今回の学術会議の動きは、まさにその過去の大きな過ちへの道を再びたどるものと危惧する。

平和主義と基本的人権の擁護は、患者の命を守る使命を担った医学者・医師が片ときも忘れることを許されない倫理であると同時に、日本国憲法の原則に一致するものである。世界医師会は「非倫理的行為を求める法には従わない」ことを医師に求めている。

日本学術会議は1950年に「戦争を目的とする科学研究には絶対従わない決意の表明(声明)」を、1967年には「軍事目的のための科学研究を行わない声明」を発出している。これはわが国の科学者の真の自律と良心の宣言として、過去・現在そして未来までもその輝きがいささかも失われることがあってはならないのである。

「『戦争と医』の倫理の検証を進める会」は、歴史の教訓を踏まえ、科学者としての倫理と平和を追求する立場から今回の大西会長の発言に大きな危惧を有し、反対の意思を表明し、従来の声明の擁護を求めていくものである。

2016年6月8日

「戦争と医」の倫理の検証を進める会

2016年6月8日、参議院会館における、「戦争と医の倫理」の検証を進める会の日本学術会議の軍事研究容認の動きを危惧し、反対する医学・医療関係者の声明に関する記者会見の報道

2016. 6. 9

毎日

軍学共同の動き危惧

医学者らが声明発表

医学・医療関係者に「歴の検証を進める会」による「戦争と医の倫理」の検証を進める

会見し、軍学共同の動きを危惧し、反対する声明を発表しました。日本の科学者の代表機関である日本学術会議の大西隆会長が自衛隊のための軍事研究を認める発言をして、同会議は「安全保障と学術には

「731部隊」に代表されるように、日中戦争では患者の命を守るべき医学者・医師が「研究」の目的のもとに残虐行為を行い、戦後はデータ供与と引き換えに米政府に提供されたと強調。731

赤旗 160609

「研究」の問題には、軍事研究が行き着く先すべてが含まれている」と指摘し、学術会議に、軍事研究拒否を宣言した従来の声明を心ではない。警視庁を鳴らしていきたい」と

と述べ、世話人の香山リカ・立教大学教授は、「検討委員会が大西会長の私見を否定する」とへの期待も込めて声明を発表した」と話しました。

軍事研究容認に反対

医学関係団体「過ち再びたどる」

日本の科学者の代表機関「日本学術会議」が軍事研究を否定する声明の見直し検討を始めたことを受け、医学関係者らでつくる団体「戦争と医の倫理の検証を進める会」は8日、東京都内で記者会見し、歴史を踏まえて声明を守るよう訴えた。西山勝夫・滋賀医科大学名誉教授（社会医学）、精神科医の香山リカ・立教大学教授ら5人が出席した。同会は、第二次大戦

中に細菌兵器開発や人体実験をした旧日本軍の秘密機関731部隊の検証に取り組んできた。西山氏は「関与した医学者や医師らはデータ供与と引き換えに米国から免責され、事実上隠されたまま」と指摘。「731部隊の問題には軍事研究が行き着く全てが含まれている。学術会議の動きは過去の過ちへの道を再びたどるものだ」と批判した。

【千葉紀和】

学術会議に反対声明

朝日版

日本学術会議が軍事研究のあり方を見直す検討委員会を設置したことを受け、医師らでつくる「戦争と医の倫理」の検証を進める会」が8日、軍事研究に道を開くものだとする反対声明を発表した。

会の代表世話人を務める西山勝夫・滋賀医大名誉教授は、学術会議の大西隆会長が自衛隊目的の研究を容認するとの考えを示してきたと指摘。「医師を含め、広く科学者が研究の目的で残虐な行為をおこなう加害者となった過ちを繰り返すべきではない。自衛隊の名のもとに軍事研究に公然と道を開こうという委員会設置を強く危惧する」と訴えた。

2016. 6. 9 東京

「軍事目的の研究しない声明」擁護

日本学術会議が、大学や研究機関の研究者が自衛隊目的の軍事研究をすることの是非などを検討する委員会を設置したのを受け、医療系の研究者らでつくる「戦争と医の倫理」の検証を進める会」が8日、東京都内で記者会見した。代表世話人の西山勝夫・滋賀医科大学名誉教授は「学術会議が過去に出した『軍事目的のための科学研究を行わない声明』の擁護を求める」とする声明を発表した。検証を進める会は、旧日本軍の七三部隊による人体実験などの非人道行為を検証し、医の倫理向上を図るために二〇〇九年に設立された。会見では、学術会議の大西隆会長が「自衛隊目的の研究を大学などの研究者が行うことは許容されるべきだ」と発言したことに意見が相次いだ。松村高夫・慶応大学名誉教授は「戦前も自衛隊のためとして軍事研究が進められた」と指摘。「安倍政権は大学の軍事研究を認めるべきだとして、いくつもの大学が軍事研究を認めた。日本社会の軍事化の流れの中で出た発言で危機感を持っている」と話した。精神科医の香山リカ・立教大学教授は「学術会議でも抗議の声を上げにくい状況なのではないか。多くの人に現状を知ってもらい、軍事研究反対の声を上げていくことが大切だ」と話した。

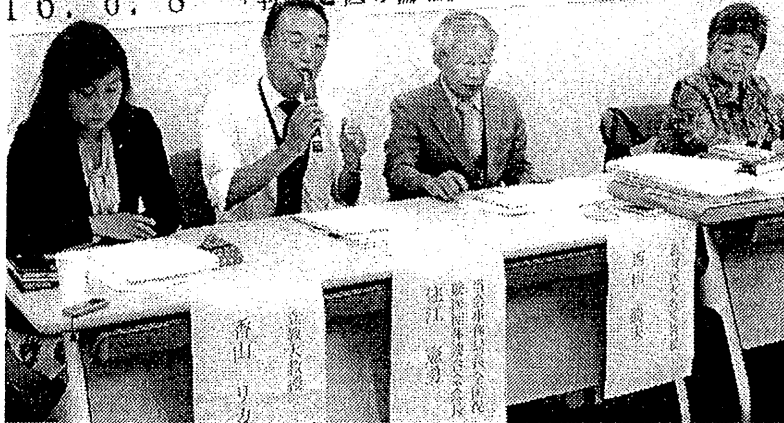
学術会議の検討委設置を懸念

戦争と医の倫理の検証を進める会

2016. 7. 15 号

議の『安全保障と学術に関する検討委員会』設置を る医学・医療関係者の声明 (国会内記者会見)

16. 6. 8 「戦争と医の倫理」の検証を進める会



記者会見で話す住江保団連会長

学術研究の軍事利用を危惧

戦争と医の倫理 検討委員ら会見

日本学術会議の大西隆
会長が個別的自衛権の範
囲内であれば軍事研究を
容認するとの考えを表明
し、日本学術会議内に「安
全保障と学術に関する検
討委員会」設置した問題
で、「戦争と医の倫理の検
証を進める会」は6月8
日、参議院議員会館で記
者会見し、「日本学術会議
の軍事研究容認の動きを
危惧し、反対する」声明
を発表した。同会事務局
長を務める住江憲勇保団

連会長も出席し、「第2次
世界大戦下の731部隊
問題等過去の教訓に学ぶ
ならば、研究が個別自衛
権の範囲に留まるとは考
えられず、限りなくエス
カレートしかねない」と
大西会長の見解を批判し
た。
NHKなど9報道機関
が参加し、記者からも「学
術分野での軍事研究容認
の流れに危機感を抱いて
いる」との発言があるな
ど、高い関心が示された。
会見は、ネットテレビ
WJ、朝日、毎日、東京
赤旗各紙が報道した。
この問題の背景には、
国の学術予算が極端に低
いこと、安保法制の「整

備」として創設された防
衛省の安全保障技術研究
推進制度について自民
党・国防部会では100
億円規模にしようという
議論が行われていること
がある。これらの動きは、
学問の自由な発展を阻害
することともなる重大な
問題である。

会見には、同会の西山
勝夫代表世話人(滋賀医
大名誉教授)、香山リカ
(立教大学教授)、川嶋み
どり(日赤看護大学名誉
教授)、松村高夫(慶應大
学名誉教授) 各世話人が
参加し、小島莊明常任世
話人(東京大学名誉教授)
がメッセージを寄せた。